

トビウオ通信 (R3 第3号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和3年度上半期浮魚中長期漁況予報》

2020年度第2回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報（令和3年3月26日国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所（以下、水産資源研究所）より、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の令和3年度上半期（4月～9月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和3年度上半期(4～9月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年並み

ウルメイワシ:前年並み

カタクチイワシ:前年並みか前年を下回る

※本文中で「上半期」は4月～9月、「下半期」は10月～翌年3月（令和3年3月は速報値）、「平年」は過去5年（平成28年～令和2年）の平均値、「前年」は令和2年度上半期を示します。

マアジは前年並み

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和2年11月～令和3年1月の漁獲状況は、前年・平年を上回りました。

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は平成16年度以降、1万～4万トンで推移していましたが近年減少傾向にあり（図1）、令和2年度下半期では3,292トン、前年同期（2,843トン）の116%、平年同期（7,212トン）の46%でした。

今後の予報

水産資源研究所の予報では鹿児島県から山口県における今後（4月～9月）の漁況は、沖合域で前年並み、沿岸域で前年・平年並みと予測されています。山陰における今後の漁況（4月～9月）は、漁獲の主体となる1歳魚（大きさ15～20cm：令和2年生まれ）と2歳魚（大きさ20～25cm：

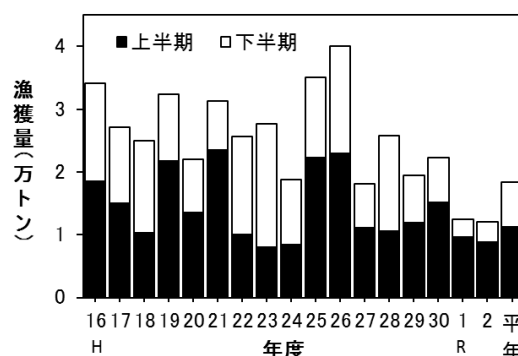


図1. 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量の推移（平年はH28～R2の平均値）

令和元年生まれ)の山陰沖への来遊状況と、夏季以降漁獲対象となる0歳魚(大きさ5~15cm:令和3年生まれ)の加入状況によって決まります。1歳魚の資源水準は、山陰沖での直近の漁獲状況とマアジ新規加入量調査^{※1}の結果(図2)から前年をやや上回ると予測され、2歳魚の資源水準は低かった前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、東シナ海におけるマアジの稚魚の分布量と高い相関が見られる4月半ばの好適水温帯面積は、令和3年は前年並みと見込まれることから0歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。以上のことと直近の漁獲動向を考慮すると、今後(4月~9月)の来遊量は、前年並みと予測します。

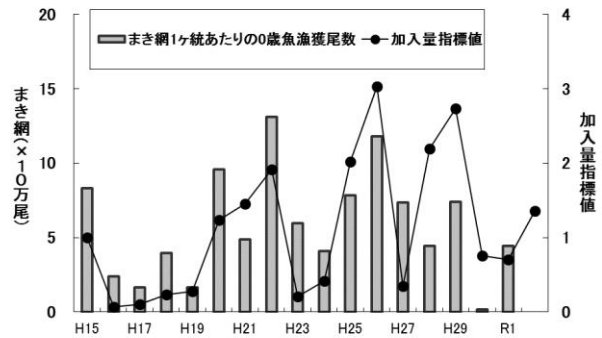


図2. マアジ新規加入量調査による加入量指数^{※2}と6月~12月におけるまき網(境港)1ヶ統あたりの0歳魚の漁獲尾数

※1 マアジ新規加入量調査: マアジ0歳魚の加入量を早期に把握するための調査

※2 加入量指数: マアジの新規加入量調査においてその年の0歳魚の加入量を数値化したもの。なお、平成15年を1としている。

マサバは前年並みか前年を下回る

東シナ海~日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和2年11月~令和3年1月の漁獲状況は、前年を上回り、平年並みでした。

島根県の中型まき網によるサバ類(島根県で漁獲されるサバ類はほとんどがマサバ)の漁獲量は、盛漁期にあたる下半期の経年変化をみると、平成16年以降では5千~2万トンの中で増減を繰り返して推移しています(図3)。平成27年以降は上半期にも漁獲が増加している傾向にありましたが直近2年は不漁が続いています。令和2年度下半期の漁獲量は6,387トンで、前年同期(3,017トン)の212%、平年同期(10,711トン)の60%でした。

今後の予報

水産資源研究所の予報では鹿児島県から山口県における今後(4月~9月)の漁況は沖合域で前年並み、沿岸域で前年を下回り、平年並みと予測されています。山陰における今後の漁況(4~

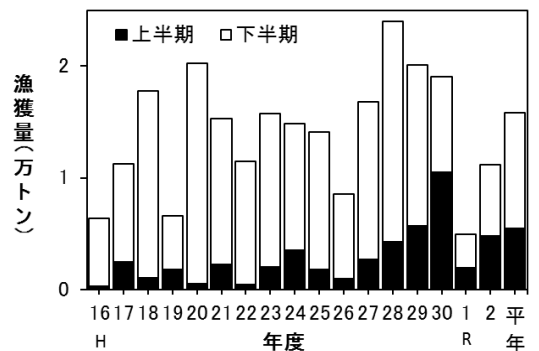


図3. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移(平年はH28~R2の平均値)

9月)は、1歳魚(大きさ25~30cm:令和2年生まれ)と2歳魚(大きさ32cm以上:令和元年生まれ)が漁獲の主体となり、夏以降は0歳魚(大きさ15~20cm:令和3年生まれ)も漁獲されます。1歳魚の資源水準は、前年を上回るとされ、2歳魚の資源水準は前年を下回るとされています。また0歳魚の資源水準は予測が困難ですが、親魚量は微増であるため前年並みと予測されています。したがって今後(4月~9月)の来遊量は、東シナ海~日本海域の漁況から前年並みか前年を下回ると予測します。

マイワシは前年並み

東シナ海~日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和2年11月~令和3年1月の漁獲状況は、前年を上回り、平年並みでした。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成16年~平成22年は非常に低調に推移し、平成23年から増加し(図4)、平成26年を除いて1万~3万トンで推移しています。令和2年度下半期の漁獲量は4,015トンで前年同期(11,873トン)の34%、平年同期(8,566トン)の47%でした。

今後の予報

山陰における今後の漁況(4月~9月)は、漁獲の主体となる1~2歳魚(大きさ15~20cm:令和元年~令和2年生まれ)と夏以降の0歳魚(大きさ15cm以下:令和3年生まれ)の来遊量で決まります。1歳魚の資源水準は前年を上回ると考えられます。また0歳魚の予測は困難ですが、直近の漁況では日本海西部沿岸域に親魚の来遊が確認されていることから前年並みか前年を上回る可能性があります。今後(4月~9月)の来遊量は、0・1歳魚の資源水準は増加傾向であることから好調であった前年並みと予測します。

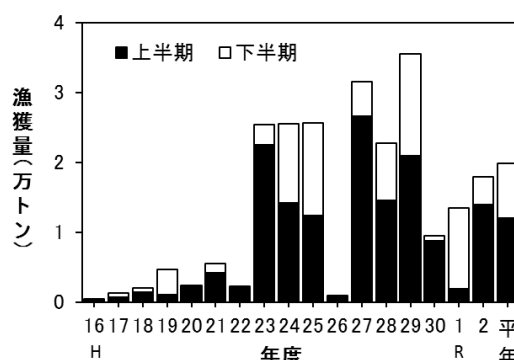


図4. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移(平年はH28~R2の平均値)

ウルメイワシは前年並み

東シナ海~日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和2年11月~令和3年1月の漁獲状況は、前年並みで、平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成23年以降増減していましたが、近年は増加傾向にあります(図5)。令和2年度下半期の漁獲量は1,728トンで、

前年同期（2,796 トン）の 62%、平年同期（1,991 トン）の 87%でした。

今後の予報

山陰における今後の漁況（4月～9月）は、1～2歳魚（大きさ 18 cm以上：令和元年～令和 2 年生まれ）と夏以降の漁獲に加わる 0 歳魚（大きさ 5～15 cm：令和 3 年生まれ）が漁獲の主体となります。1 歳魚の資源水準は前年並みとされています。0 歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、産卵量調査の結果より前年並みと考えられています。以上より、今後（4月～9月）の来遊量は前年並みと予測されます。

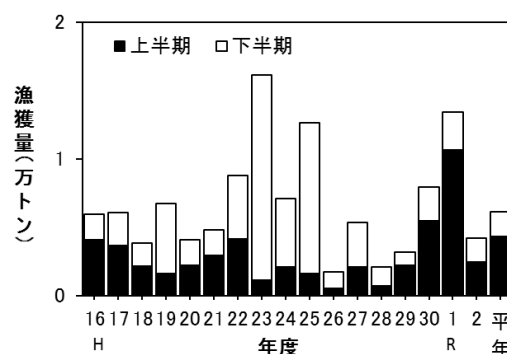


図5. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移（平年はH28～R2の平均値）

カタクチイワシは前年並みか前年を下回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和 2 年 11 月～令和 3 年 1 月の漁獲状況は、前年並みで、平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 25 年以降減少しています（図 6）。令和 2 年度下半期の漁獲量は 1,594 トンで、前年同期（232 トン）の 687%、平年同期（952 トン）の 167%でした。

今後の予報

山陰における今後の漁況（4月～9月）は、漁獲の主体となる 1～2 歳魚（大きさ 12～14 cm以上：令和元年～令和 2 年生まれ）と夏以降の漁獲に加わる 0 歳魚（大きさ 5～10 cm：令和 3 年生まれ）が漁獲の主体となります。1 歳魚の資源水準は前年並みか上回ると予測されています。0 歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、九州西岸の上半期（4月～9月）の漁獲量は前年並みと予測されています。今後（4月～9月）の来遊量は、水産資源研究所は前年を上回ると予測していますが、島根県での前年同期の漁獲量が近年の中では多かったことから前年並みか前年を下回ると予測します。

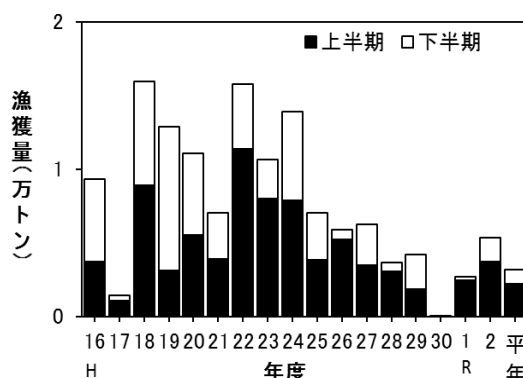


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移（平年はH28～R2の平均値）